

教員名	青木 紀久代 (AOKI Kikuyo)
所属	人間文化研究科人間発達科学専攻
学位	
職名	助教授
URL/E-mail	http://www.develop.ocha.ac.jp/aoki.html

◆研究キーワード

子育て支援 / 学校メンタルヘルス / コミュニティ・アプローチ

◆主要業績

総数 (35) 件

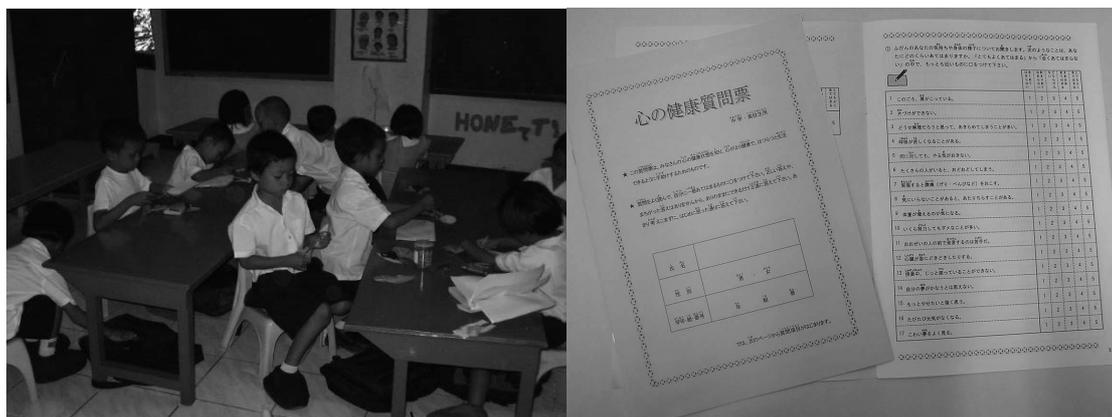
- ・星薫・山口勤・青木紀久代 2006 心理学入門 財団法人放送大学教育振興会
- ・Aoki K., & Nakano Y. 2005 Study on Child-Rearing Support in Slums of the Philippines. Journal of international Psychology Reporter. 10(1),13-15.
- ・永井美鈴・青木紀久代・増田かやの・岩藤裕美 2005 「女子高校生を対象とした摂食障害予防教育の試みーメンタルヘルス促進授業プログラムの効果ー」 学校保健研究 47(5),436 - 451.

◆研究内容

臨床心理学の蓄積を一個人心理療法からコミュニティへのメンタルヘルス支援・心理教育へと発展的に活用するためのシステムを構築することを目指した実践研究を行っている。例えば、対象となるコミュニティ独自の問題を把握するためのアセスメントツールの開発・アセスメントに基づく処方箋の適用・一定の実践及び事後評価を一貫して展開する。研究は、保育園協会、学校、教育委員会、あるいは就学援助を行うNGOなど、問題解決のニーズのある団体との協働となる。このようなスタイルで、2005年度に行った主な研究プロジェクトは、次の4つである。①幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究ー心理的援助のためのアウトリーチ・プログラムの構築ー、②フィリピン・セブシティスラム地区の就学前児童におけるECCD（幼児の早期ケア発達支援）縦断研究、③子育て支援者の専門研修プログラム開発、④インターネットによる子育て支援の可能性に関する調査研究。

◆教育内容

生涯発達上に起こるさまざまな心理的不適応の問題の理解と対応を、実践知と実証知の双方から学ぶことをテーマにしている。学部では、発達臨床心理学、心理臨床学、臨床心理学基礎実習、等の授業を担当した。またコアクラスター授業を半期担当し、主に摂食障害の心理・社会問題をジェンダー論から検討した。大学院では、カウンセリング特論・発達臨床心理学特論などを担当し、心理療法の個人指導及び実践研究を主とした修士論文指導を行った。「相談動機の低い思春期の生徒への予防的・心理臨床的支援を探る」「エンパワメントの観点からみた母親の参加体験過程：保育園・子育て広場における子育てネットワーク構築の試みから」「幼・小移行期の保育のなかで自己感を育てる心理臨床コンサルテーション」(以上修士論文)。博士後期課程では、在籍学生の全てが臨床心理士資格を有し、児童相談所、子育て支援センター、学校、クリニックなどでの専門職としての臨床経験を活かしながら、臨床研究に取り組んでいる。全ての学生が、学会発表と論文の執筆を行った。



◆Research Pursuits

I am preceding practical studies with the aim of constructing systems in which we can progressively apply the accumulated findings in the field of clinical psychology and individual psychotherapy to mental-health support or psycho-education in community. For example, I continuously conduct a study to develop an assessment tool for grasping the problems uniquely exist in the targeted community, to apply the prescription based on the assessment and to evaluate the specific practice.

Studies are collaborated with nursery school association, schools, school board or NGOs that support schooling. The four main research projects preceded in 2005 are as follows: 1. A longitudinal study on mental health from early childhood to adolescence; 2. Development of an out-reach program for psychological support, 3. A longitudinal study for early childhood care and development (ECCD) in a slum area in Cebu, Philippines, 4. Development of a training program for parenting supporters, 5. A research on the availability of parenting support through internet.

◆Educational Pursuits

The main theme to study is to understand and respond to various psychological maladjustments during life-course development from clinical practices and empirical knowledge. For undergraduate programs, I was in charge of Development and Clinical Psychology, Clinical Psychology, Fundamental trainings of clinical psychology and so on. Moreover, I was in charge of core-cluster classes and examined the psychological and social issues lay behind eating disorders from gender study perspectives. For graduate programs, I was in charge of Counseling theories, Developmental and Clinical Psychology and so on, and supervised individual counseling cases and master's theses. "Exploring preventive and psychological support for early adolescents whose motives for visiting counseling are low", "The experiencing of mothers' from the viewpoint of empowerment: Through an attempt to develop parenting networks in nursery schools", "Consultation to foster children's sense of self in early childhood care and education during the transition from kindergartens to elementary schools". (The above-mentioned are supervised master's theses) In the doctoral program, students all acquired the certified clinical psychologist, and are working on their studies while making use of their specialized work experiences at clinical settings, such as child counseling centers, child support centers, schools, mental clinics. All students presented their researches at conferences and submitted papers.

◆共同研究例

- ・八王子私立保育園協会との共同研究
- ・NGO カパティとの共同研究

◆将来の研究計画・研究の展望

現在4つのプロジェクトは、それぞれの成果をふまえ、発展している。例えば、学校メンタルヘルス関連のプロジェクトは、2006年度より、教育委員会と共同で、小豆島における食育とメンタルヘルスの増進推進プロジェクトに発展する。子育て支援プロジェクトは、2006年度より、八王子市と共同で子育て支援のネットワークシステム構築の実践研究へと発展する予定である。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・メンタルヘルス、子育て支援などに関するコミュニティベースの実践研究

◆受験生等へのメッセージ

臨床心理学の中でも発達臨床心理学の発想は、治療的アプローチを用いながらも、もっと発達促進的で、育ち合う関係作りを重視します。カウンセリングルームに自ら訪れ、自分の悩みをじっくりと語ることができ、心の内面を癒し、自己成長できる人というのは、ある意味では、恵まれた支援環境にある人だとも言えます。世の中には、援助の必要な人は沢山いますが、全ての人を救うことはできないし、また支援者自身も、実は、沢山の援助を必要とします。ありもしない「万能な支援者」という錯覚に陥ることなく、学部時代は、「心の援助」の基本を、広く学び、また他者に助けられながら育てている私たち自身を自覚しながら、卒業後、様々な生活シーンに役立つものをつかんで下さい。大学院に入って、臨床心理士を目指す人達、あるいは、すでに専門家の人達には、在学中に、是非自分たちの心理臨床活動のイメージの幅を広げ、創造的な援助スタイルを見いだして頂きたいと思います。